第78回 RK ENGINEERING CO.,LTD

●事業内容
各種容器の鏡板の製造、販売
各種圧力容器の製造、販売
熱処理炉システムの設計、製造、施工、据付、修理及び保守

●RK ENGINEERING CO.,LTD.
所在地:Land Plot CN3.2K, Dinh Vu Industrial Zone, Dong Hai 2 Ward, Hai An Dist., Hai Phong, Vietnam

ホームページ:
http://www.nkweb.co.jp/rk_engineering/

日本本社:
日本鏡板工業株式会社
大阪市西淀川区御幣島6丁目12-22

●ホームページ
http://www.nkweb.co.jp/

RK ENGINEERINGは、容器に用いるプレス及びスピニング加工による成形品の製造、圧力容器及び、溶接構造品の設計・製造を専門に行っている日本鏡板工業株式会社の100%出資現地法人として、2011年4月に、ハイフォン市に設立されました。主な事業内容は、大型の圧力容器及び、溶接構造品の設計及び製造となっています。RK ENGINEERINGは、ハイフォン市のディンブー工業団地に日系企業として2番目に古くからの進出企業です。今回は、RK ENGINEERINGの土屋社長にお話をお伺いしました。

○ベトナム進出の経緯を教えてください。

日本鏡板工業株式会社は、1965年の設立以来50年以上に渡って、圧力容器と圧力容器の両端のカバーとなる鏡板を専門に製造しておりますが、今後の将来展開として、海外で高品質且つ競争力のある価格で、圧力容器、鏡板、工業炉、燃焼機器及び耐火物を製造し、アジア諸国へ供給していくことを考えておりました。その中で、中国なども含めて海外進出先の検討を行った結果、経済成長が著しく、将来的なプラント建設需要が見込める点や勤勉な国民性からベトナムが有力な進出候補先となりました。

そこで、まずはJETROハノイ事務所のビジネスサポートセンターへ入居して現地調査を行うことにしました。2010年8月にビジネスサポートセンターへ入居し、現地の情報収集、現場視察、材料調達状況の調査、工業団地調査などを行い、常駐アドバイザーによるコンサルティングサービスにより、投資環境情報などを収集しました。その結果、ハイフォン市のディンブー工業団地が、物流において優れた立地条件を有しており、優秀な人材の採用が可能であると判断し、ディンブー工業団地への工場設立を決定しました。その後、JETROのアドバイザーをはじめ、ディンブー工業団地の社長など多く方のご協力により2011年4月に現地法人を設立し、2012年2月から第1工場の操業を開始、2013年8月には、当初予定よりも早く第2工場を竣工しました。

ディンブー工業団地の入居企業は、法人税の優遇税制措置を受けられ、更に個人所得税の減税措置も受けられますので、これは、社員にとっても非常に良かったと思っています。

○事業内容について教えてください。

弊社の親会社は、日本で50年以上に渡って鏡板の製造を行っております。鏡板と言

いますのは、高圧ガスタンクなどの円筒形の圧力容器の両端のふたの部分にあたるものです。鏡という字を使うのは、鏡餅からとも鏡割りからとも言われております。
ベトナム法人も、スタート時点では、日本の親会社の注文を受けて、各種容器の鏡板、各種圧力容器などの製造を行い、日本へ輸出しておりました。その他にも工業炉の廃熱回収に用いられるレキュペレータ、遠心力ポンプなどで使用されるインペラ、ケーシング等の製造から金型保管用の棚といったものまで様々な製品の製造を行っています。設立当初は、兎に角何でもやっていこうという姿勢でおりましたが、丁度日系企業のハイフォン進出が盛んになってきた時期でもあったため、予想外に現地の日系企業様からお引合いを頂くケースが増えて参りました。これまで日本では、お取引のなかったような大手の企業様からも、お引合いを頂き、LPGタンク、ミキシングタンク、レシーバタンク、シリコンオイルタンクなどの製品から、製造工程で使用する大型の台車など様々なご注文を頂くようになりました。更に2012年12月には、ASME認証を、ほぼ独力で取得することが出来ました。この様な状況を受けて、当初の計画を大幅に前倒しして、2013年8月には第2工場が竣工しました。
その後も順調にベトナム国内及び日本からのご注文を頂いておりまして、ステンレスタンク、金型予熱器、100㎥溶剤タンク（6室）、溶解保持炉体、台車式熱処理炉、医薬用タンク、真空棚式乾燥機、食品タンク（ASME　U－スタンプ）など、様々な製品を製造しております。

○ベトナム人スタッフについて教えてください。

2012年の創業当時は、社員総勢30名からスタートしましたが、現在は、ベトナム工場に70名、日本本社への研修が14名で、総勢84名となっております。創業当初から働いてくれているスタッフも大勢おります。子供が生まれたといった事情で辞めた人も数名おりますが、男性は全て辞めずに働いてくれています。また、溶接部門の責任者は、元々溶接の先生をしていたのですが、弊社に来てくれることになりました。その後は、その生徒にあたる人たちも入社してくれています。また、ベトナムの大学を卒業して、日本の大学へ留学した優秀な学生が入社してくれるなど、人材には、非常に恵まれたと感じています。非常に優秀なベトナム人が、入社してくれていますので、彼らの思いに応えることを目指して日々会社を成長させるべく努力しています。

○ベトナム人社員の離職率が低い理由は何でしょうか?

特別なことを行っているつもりはないので、私も不思議です（笑）。ただ、ベトナム人の良さを引き出すのは受入側の接し方だと思っています。こちらが日本人と同じように対応すれば、彼らもそれに応えてくれます。私は、社員は、家族だと思って接するようにしています。社員の家庭の状況を聞いたり、一緒に食事をしたり、結婚式に参加したりといったことを通じて、彼らとのコミュニケーションを大切にしています。
それから、創業時から行っていることなのですが、私がベトナムにいる時は毎日朝工場の入り口に立って、社員を出迎えるようにしています。些細なことではありますが、気持ちを見せてあげれば彼らも応えてくれると思っています。

○ベトナムで事業を行うにあたって苦労されていることはありますか?

弊社の場合、原材料の調達は少し苦労しています。お客様の要望に応じて、日本、中国、インド、韓国などから調達していますが、やはりコストがかかります。ただ、人件費のメリットはありますので、日本と同じ工数、品質で大量生産していくことで、そのメリットを活かさなければいけないと考えています。その為には、ただ、日本から受注した仕事を漫然とこなすのではなく、ベトナム工場が独自に経営を考えていく必要があると思っています。

○今後の展開はどのようにお考えでしょうか?

今後は、更に東南アジアへの営業を強化していきたいと考えています。このハイフォン工場を拠点として、ホーチミンはもちろん、タイなど周辺国への営業を強化し、それと同時に、日本で得意としているような、医療関連、食品関連の製品の製造も行えるように技術力と品質を向上させ、完成品までを製造できるようにしていきたいと考えています。
将来的には、工場の作業員も更に40名程度は増員し、ベトナム工場を質と量の両方の面で日本の工場と遜色のない状態にできればと思っています。

ありがとうございました。